

自己評価結果				5:よくできていた 4:できていた 3:どちらともいえない 2:あまりできていなかった 1:できていなかった		学校評議員・学校関係者評価委員からのご提言	改善の方策
分野	学校教育目標	学校経営重点事項	達成状況	評価(昨年)			
学校運営	1 「知・考・行」の理念のもと、こころ豊かな人間の育成、総合学科の充実・発展、魅力ある信頼される学校づくりの推進	1 信頼される学校づくりの推進	項目全体としては昨年度とほとんど変化はない。「1 学校説明会やHP等を通しての情報発信」<4.0>、「2 学校の教育活動についての説明責任」<4.0>「17 部活動や委員会活動が学校の活性化につながった」<4.1>など高評価の項目が多く、様々な取組に一定の成果が上がっていると思われる。また、「9 授業公開週間は、本校の理解を深めることに有効」<3.4>は0.3ポイント上昇した。公開授業週間に教員が必ず他の教員の授業を見学することを取り入れて、まず、教員に公開授業の目的や効果を意識してもらうこととしたことで、教員の意識が向上したと思われる。来年は、保護者の参加者を増やす工夫を考える必要がある。一方で、「3生徒の社会貢献意識」<3.3>が0.4ポイント降下した。コロナの影響で地域と連携した行事がほとんど中止となってしまったことが影響している。	3.7 (3.8)		・コロナウイルスの影響で、学校の諸行事に参加する機会が減少し、様子が分かりにくかった。外部からの参加ができないときには、学校の諸行事をHPで紹介するとよいのではない。 ・HPは情報発信の窓口である。リンク切れやエラー表示がないか等は常にチェックして解消してください。 ・HPのタイトルをただで、誰に対しての情報化分かるようにするとよい。(例:「中学生のみなさんへ」) ・「公開授業週間」は周知がなかなか保護者まで伝わっていないのかもしれない。マメールやホームページで補足をするといよ。	○HPについては、本校のPRの要として、分かりやすく見やすいものにリニューアルを図る。 ○今後もHPを通した情報発信の活性化、マメールを通じた保護者との連携に取り組む。 ○コロナ禍での学校行事の在り方や外部の方に参加していただく方法については、近隣の学校との情報交換や先進校の取組を参考にしながら、ICTの活用等を検討したい。
		2 教職員の資質の向上	項目全体としては昨年度と変化はない。多忙な中で働き方改革もあり、校内研修の全員参加ができるような日程調整が難しくなっており、なかなか高評価にはならないが、「10 公開授業・研究授業による教員の資質向上」<3.3>がわずかに上昇した。公開授業週間に教員が必ず他の教員の授業を見学し、アドバイスを送った取組を今後は、さらに充実させて資質向上につなげたい。	3.5 (3.5)		・総合学科の理念などを各教員がしっかりと理解して学校全体で取り組むことができるように、教員の共通理解のための研修が必要かもしれません。 ・AED講習会、救急救命講習などは続けていくことがポイントです。	○職員研修については、その目的を明確にして、実施時期、実施内容を常に検討し改善していきたい。 ○総合学科の特徴である「課題研究」や「産業社会と人間」について職員が共通認識を図りながら指導できるよう、校内はもちろん、県の総合学科全体で取り組んでいる研修や発表会を活用して研修会や打合せを綿密に行っていく。
課題教育・教育課程	3 確かな学力の定着と進路保証システムの確立	3 教職員の共通理解の推進	「6 ノー会議デー、ノー残業デー、ノー部活デーなど、勤務時間の削減」<2.8>は30項目中最低の評価であった。働き方改革、ワークライフバランスの促進の中で、仕事の内容の見直し、取り組み方・教員の意識改革をより進めていかなければならない。 「5 学校教育目標の理解」は0.4ポイント上昇した。掲示板のみだった職員朝礼を対面方式に変更したことや職員会議等での校長講話等を通して知る機会が増えたことが理由に考えられる。「21 部と担任団の連携」<3.1>は2年連続降下し、2年前と比較すると0.6ポイント降下している。教員の連携の必要性に対する意識は高いが時間がとれない葛藤があると考えられる。	3.4 (3.4)		・コロナウイルスの影響での休校や授業数確保のための取組、ネット環境の普及等が先生方へどのような負担増になったのか、また、その解消に向けてのケアがどのようになされたのか、十分でなければその原因は何なのかを十分に分析するべきである。 ・ノー残業デー、ノー部活動デーは大変難しいことですが、割り切って実行してください。 ・情報機器を活用するなど、省略できる部分は思い切って減らして、先生方の研究の自由度を広げてほしい。 ・働く時間を減少することは大変難しいが、教員全員で考えてほしい。	○働き方改革が推進される中、仕事内容や勤務の在り方を見直すとともに、職員のセルフケアの意識を高め、部活動指導を含め、勤務時間の適正化を引き続き、図っていけるよう指導する。 ○委員の方々からのご提言や他校の実践事例を参考にしながら、教員の意識改革に取り組む。 ○今後もグループウェアを積極的に活用して、連携や共通理解を図っていく。
		5 生徒自ら学び、自ら解決する教育の推進	項目全体では昨年度と変化はない。「12 課題研究、産社」<3.8>、「13 教育課程の編成」<3.7>はいずれもわずかだが上昇しており、ともに高評価に近づきつつある。いずれも総合学科の根幹を為す内容であり、総合学科推進部を中心とした取組の工夫が功を奏してきたと考えられる。一方で「26 文化祭・体育祭・総合学科発表会」<3.4>は0.3ポイント降下している。コロナの影響で学校行事が中止や縮小となったことが原因と考えられる。	3.6 (3.6)		・名谷のパティオや各種メディアでも、生徒たちの活躍がみられる機会が増えて、生徒の学びが見えてよい。 ・学習、部活動や委員会活動など、生徒たちは学校生活が楽しめているようなので安心している。 ・コロナ禍は自ら学び考え、変化にどう対応すればよいかを考える良い機会である。社会にでて様々なことに対応できるようにするための力をつけさせてほしい。 ・総合学科発表会のプレゼンが素晴らしかった。社会で即戦力となれると感じた。	○生徒の達成感や自己有用感を満たすことができるようなプログラムをさらに取り入れ、「生徒が自ら学ぶ」姿勢を育てていきたい。 ○文化祭、体育祭、総合学科発表会の在り方について、コロナ禍での開催を好機ととらえて実施 方法等の検討を生徒主体に行うなど、生徒の自主性を引き出す方法等を見直していく。
		6 社会を見据えた進路指導の推進	「12課題研究・職場訪問・学問分野別研究を通したキャリア教育」<3.8>「15進路指導の計画性、進路行事や模試の回数の適切性」<3.8>はともに安定した評価を得ている。	3.8 (3.7)		・総合学科は「課題研究」が進学には負担というwebでの書き込みがみられることがあるが、総合学科の理念の理解を深め、多様な進路が開かれるための学力をつけさせてほしい。 ・将来のことを考えるためにも社会人との交流を増やすなどの工夫をお願いしたい。	○総合学科の特性、本校の特徴を職員全体に再認識できるように、説明等を行ったり行うことで、さらに充実させられるよう取り組む。
生活指導・心の教育	2 「あいする」学校づくりの徹底	4 基本的生活習慣の確立	項目全体ではほとんど変化はない。「24 生活指導が、学校全体として取り組めているか」<3.5>が0.3ポイント上昇したが、昨年度降下したものが戻った状態であり、今後も学校全体で指導意識を共有し、実施していくことが必要である。	3.6 (3.5)		・マスクなどの対処ばかりでなく、健康のために体を動かすようにしてほしい。 ・須磨友が丘の生徒の登下校時の様子で学校の印象が決まります。歩きスマホなど、生徒全体に意識させることが必要です。 ・頭髪やピアスの指導などが時代に会っていないのではないかと。生徒本人に自分で考えさせてみてはどうか。	○頭髪やピアス等の身だしなみについては、生徒自身が考え判断できる力を養うため、指導方法を検討する。 ○不易流行を意識しながら、徹底する部分は徹底し、時代や個々の状況に応じて変化させるべきところは柔軟に対応できるように生徒指導部を中心に年次や部とも情報共有 を密にしながら職員全体で指導を充実させる。
		7 思いやる心の教育の推進	項目全体としてはほとんど変化はない。「28 校内美化」は、<3.2>と常に低評価である。校舎の老朽化が進み、清掃の効果が感じにくい状態ではあるが、トイレの改修やクリーン作戦等を活用して整備意識を向上させたい。「30 いじめ防止」<3.3>については特に大きな変化はないが、いじめが多様化していることから引き続き、学校全体で未然防止から取り組んでいく必要がある。	3.4 (3.5)		・スマートフォンの使用のマナーやそれにつながるいじめの問題について指導していったほしい。 ・PCやスマートフォンの使用などに関する正しい意識を生徒に理解させる必要がある。 ・悪ふざけ、からかいが人によってはいじめに感じたりします。数人ですが、いじめを見たり聞いたりする人がいるようで心配です。	○スマートフォンやSNSの使い方などを「いじめ」や「人権意識」を生徒に意識させることができるような講演や講座などを行っていく。 ○これからも地域と連携したボランティアを通じて生徒の社会貢献意識やおもいやり心を育てていきたい。 ○校内の美化体制を見直すとともに、クリーン作戦の在り方を検討し、生徒の整美意識の高揚を図る。
		8 校内施設の整理整頓、校内外美化の推進	「28 校内美化」<3.2>や「29 校内の安全点検」<3.1>が低評価であるが、老朽化の中で教職員の努力で校内の安全確保は進めている。一方で、「7 情報機器の使用や管理と保守」<4.0>と0.3ポイント上昇し高評価となった。短焦点プロジェクトの導入やタブレットの導入が進み、ICTを活用した字行が進めやすい環境が整ってきている。	3.4 (3.3)		・前庭と中庭がずいぶんとすっきりして明るくなりました。ベンチもきれいになり大変良い。 ・懸案のトイレ改修が進み、ネットで見られる生徒の苦言が解消されるのではないかと。 ・トイレ、特に洗面場所は各自が使用後に美化を行うように進めてほしい。	○ICTを活用した授業方法等の研究を充実させる。 ○校内の安全点検については、点検体制を見直し、事務室とも協力し、全職員が高い意識を持つように連携を図る。 ○グループウェアは今後も積極的に活用する。 ○トイレ改修を機会として、校内の清掃意識を高められるような指導を行う。
		9 ボランティア活動の推進	「3生徒の社会貢献意識」<3.3>はこれまでは地域の方々に支えられ、安定した高評価であったが、今年度はコロナの影響で地域連携の行事が中止となったものが多かったため、低下したと考えられる。今後は、状況に応じた行事のあり方を検討したり、イベントに参加するだけでないボランティアの方法等を検討していくべ	3.3 (3.7)		・自治会行事や地域の行事に生徒さんに参加いただき、ありがとうございます。 ・ネパールの女性3人との交流ができてよかったです。これからも地域と連携して計画を立てて交流を続けていってほしいです。 ・生徒の社会貢献の意識がもう少し上がってくるとよい。	○地域行事へのボランティア参加を今後とも活性化していく。 ○ボランティア活動が生徒会中心から部活動単位へ、さらには学校 全体の取り組みとなるように、生徒個人の意識を変革する。
		10 新たな危機管理体制の確立	項目全体としては変化はない。「29 校内の安全点検」<3.1>は全体から見ても低評価となっている。今年度のコロナの影響での臨時休業など、これまでの地震や台風等の危機管理だけでなく、新たな脅威に対する危機意識は高まっていると感じている。	3.5 (3.5)		・地震、台風、コロナ等々危機意識を持たなければならないことがたくさんある。学習の必要があります。 ・校内美化は防犯にもつながるのできれいに使っていってほしい。 ・現在のコロナ禍の状況は危機管理体制における学校の対応が問われるときである。不測の事態に備えて、情報化の推進など今後に備えていただきたいと思います。	○今後も、折に触れて教員の危機管理意識や安全に対する意識の高揚を図るとともに実効性を伴う力をつける研修を推進する。 ○校内の安全点検については、事務室・安全衛生委員会とも協力し、点検体制を見直すことで、全職員が高い意識を持つように連携を図る。 ○コロナ禍における学校教育について、他校や教育委員会とも連携を取りながら情報を収集し、危機に対応できる体制を作る